

越前町議会・令和8年6月定例会一般質問【高松 恒雄議員】

(令和8年6月10日 午前10時1分 開始)

○5番(高松恒雄君) おはようございます。

今日はトップバッターとして、いささか緊張しています。私は、今日の一般質問がうまくいくように、先週の土曜日に福井市大宮にある護国神社に参拝してきました。護国神社は、私が崇拝し、越前町にもゆかりがある橋本左内先生も祭られていて、境内には、命日にちなんだ10.7mの杉の木の柱と「急流中底之柱 即是大丈夫之心」と刻まれた石碑がありました。僕もお守りも買って来たんですけども、「大丈夫」と書いて「ますらお」と読むみたいです。急流の中にある柱のようにいかなるときも動じず、流されずに雄々しく立っている姿こそが大丈夫(ますらお)の心であるという意味です。

今日の一般質問も、何事にも流されない強い心と大丈夫で健康な状態で挑みたいと思います。

それでは、議長のお許しをいただきましたので、通告書に基づき質問いたします。最初に、健康寿命の延伸についてです。

我が国は、世界有数の長寿社会を迎えておりますが、単に長生きするだけでなく、いかに健康で自立した生活を送れるかが重要となっております。その指標がいわゆる健康寿命であり、平均寿命との差、すなわち介護や支援を必要とする期間をいかに短縮するかが大きな課題であります。

特に地方においては、人口減少、高齢化が進む中で、医療費や介護費の増大は財政にも直結する問題であり、健康寿命の延伸は住民福祉のみならず、持続可能な町運営の観点からも極めて重要であります。

そこで、まずお伺いいたします。県と比較して、平均寿命、健康寿命はどうなっているのでしょうか。

○議長(藤野菊信君) 民生理事。

○民生理事(臥龍岡尊哉君) それでは、高松議員のご質問にお答えいたします。

国勢調査が行われました令和2年の本町の平均寿命は、男性は県の82歳を下回る81.4歳で、女性は県の87.8歳を上回る87.9歳でございます。一方、健康寿命は、男性は県と同じ80.1歳で、女性は県の84.5歳とほぼ横ばいの84.3歳でございます。

また、令和4年の健康寿命は、男性79.7歳、女性84.1歳で、男性は県の80.2歳を0.5歳、女性は県の84.3歳を0.2歳、いずれも下回っています。

以上です。

○議長(藤野菊信君) 高松恒雄君。

○5番(高松恒雄君) 次に、現在の越前町における健康寿命の課題について、どのように認識されているのかお聞かせください。

○議長(藤野菊信君) 民生理事。

○民生理事(臥龍岡尊哉君) それでは、ご質問にお答えします。

本町では、平均寿命が順調に伸びている一方、健康寿命は令和2年から令和4年の2年間で男性は0.4歳、女性は0.2歳短くなっており、僅かではございますが、平均寿命と健康寿命の差が広がっていることが課題であると認識しており

ます。

平均寿命と健康寿命の差を小さくすることは、個人の生活の質の維持向上を図り、健やかで心豊かに生活できる維持可能な社会の実現に寄与するとともに、医療費や介護給付費などの社会保障負担の軽減にもつながるものと考えております。そのため、健康寿命の延伸を目指し、生活習慣の改善や生活習慣病の発症予防、重症化予防を行うとともに、社会とのつながりの維持などによる健康づくりを推進することが重要であると認識しております。

○議長（藤野菊信君） 高松恒雄君。

○5番（高松恒雄君） また、健康寿命延伸のためには、予防の視点が極めて重要であります。特に運動習慣の定着、食生活の改善、社会参加の促進、この3点が鍵であるとされております。しかしながら、現実には分かっているにもかかわらず、参加のきっかけがないといった声も多く聞かれます。

そこでお伺いいたします。現在、町が実施している介護予防事業や健康づくり事業について、その参加率や効果をどのように評価し、今後どのように改善していくお考えかお聞かせください。

○議長（藤野菊信君） 民生理事。

○民生理事（臥龍岡尊哉君） それでは、お答えします。

現在実施している主な健康づくり事業は、健康フェア、えちぜん健康チャレンジ、健康づくり出前講座がございます。

健康フェアは、令和7年度は、各地域での集団検診やイベントなどに合わせて、ミニ健康フェアとして、食生活改善や給食体験、健康体験などを実施し、参加実績は約420人で、前年度より約70人の増でございました。

えちぜん健康チャレンジは、町民の方に健康に関する取組をポイント制で実践していただき、100ポイント以上の達成で商品券などと交換するという事業で、令和7年度の達成者は258人で、前年度より10人の増でございました。

健康づくり出前講座は、身近な地域において、生活習慣改善や運動などの講座を開催するもので、令和7年度は8回、参加者は268人で、前年度より開催回数は3回減りましたが、参加人数は約50人増えております。

これらの事業の評価といたしましては、自ら積極的に健康づくりに取り組む人だけでなく、関心の薄い人にも健康に対する知識や意識を深め、健康づくりに取り組むきっかけになるものと考えております。

今後も、幅広い年代層で多くの方に参加していただけるよう、広報誌やホームページに加えまして、SNSを活用した情報発信や身近な場所での事業実施に努めてまいります。また、健康づくりは重要であると認識していただき、継続して取り組んでいただけるよう、地域や関係団体等と連携しながら、より魅力的な事業内容となるよう見直しを図ってまいります。

次に、現在、実施している主な介護予防事業は、つるかめ体操教室、ココカラ教室、いきいき教室などがございます。介護予防サポーターが地区公民館等で実施するつるかめ体操教室は、令和7年度、町内57か所1,992回実施をし、延べ1万3,635人が参加されました。

短期集中的に運動機能・口腔機能の向上や栄養改善プログラムを提供するココカラ教室は、令和7年度延べ430人が参加されました。教室の開始と終了時には体力測定や面談を行い、参加者の約70%に運動機能向上や維持、生活意欲の向上が見られました。

いきいき教室は、要支援1及び2の軽度認定者等を対象とした送迎付のいわゆる

ミニデイサービスですが、令和7年度延べ2,076人が参加されました。

これら介護予防事業の総合的な評価としては、直近3か年の事業対象者や要支援1、2及び要介護1の軽度認定者数は増加している一方、要介護3以上の重度認定者数は減少しており、特別養護老人ホームなどの施設サービス利用者数も減少傾向になっております。

加齢に伴い、心身の活力が低下した高齢者の方に対して、早期から介護予防事業に取り組むことで、認知機能の維持や生活不活発病を予防し、介護の重度化を未然に防ぐ一定の役割を果たしているものと考えております。今後も引き続き早期発見、予防に注力し、高齢者の方が住み慣れた自宅でできる限り自立した生活を続けられるよう、また、介護が必要となった場合でも、重度化を防ぐことができるよう取り組んでまいります。

○議長（藤野菊信君） 高松恒雄君。

○5番（高松恒雄君） 近年では、フレイル予防が重要視されています。身体的な衰えだけでなく、社会的孤立や認知機能の低下も含めた総合的な対策が求められております。特に本町のような地域では、地域コミュニティの力を生かした取組が大きな鍵となると考えます。

そこでお伺いいたします。地域サロンや通いの場など、住民主体の活動をどのように支援し、健康寿命の延伸につなげていくのか、具体的な方針をお示しく下さい。

○議長（藤野菊信君） 民生理事。

○民生理事（臥龍岡尊哉君） それでは、ご質問にお答えします。

介護予防サポーターやフレイルサポーターなど住民ボランティア活動への支援及び後継者育成のための養成講座、現任サポーターのスキルアップやフォローアップ講座を毎年実施しております。

サポーターは有償ボランティアで、年代は主に退職後の65歳から75歳までの元気な高齢者の方であり、ボランティア活動に従事することが社会参加や社会貢献の一翼となるだけでなく、サポーターご自身の介護予防や健康寿命の延伸につながります。

今後、後期高齢者の増加と地域活動の担い手不足に対応するため、元気な高齢者が地域の活性化や心身が衰えた高齢者の方の支援者となるなど、高齢者ご自身もお互いに地域の支え合いや助け合いを実践していかなければなりません。町といたしましても、貴重な人的資源や地域での交流機会を確保できるよう、技術的支援や伴走支援を継続し、住民ボランティアによる介護予防活動のさらなる充実を図ってまいります。

○議長（藤野菊信君） 高松恒雄君。

○5番（高松恒雄君） 最後に、健康寿命の延伸には、若い世代からの取組も重要であります。生活習慣病の予防や子供の頃からの運動、食育の積み重ねが将来の健康に大きく影響いたします。

そこでお伺いいたします。学校における食育を含めた健康教育について、どのように位置づけ、今後どのように充実させていくのかお聞かせください。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） それでは、お答えいたします。

学校における食育を含めた健康教育は、学習指導要領において、生涯にわたって心身の健康を保持、増進し、豊かな生活を実現する資質能力を育成することが重要であるとされており、町ではこれを踏まえ、確かな学力と探究力、豊かな心と

健やかな体を育成する教育を推進するための重要な教育施策の一つとして位置づけております。

具体的には、保健体育では、生活習慣病の予防や運動の意義について学習するほか、家庭科では、栄養バランスや望ましい食生活について学んでいます。また、栄養教諭による食育指導を通じて、地場産物を含めた食への理解を深めています。生活習慣病予防の意識を高める取組では、中学2年生の希望者を対象に血液検査を実施しており、多くの生徒、保護者が健康に関心を持ち、生活習慣や食生活を見直す機会として活用しています。

加えて、養護教諭を中心に、歯磨き指導や目のトレーニング、早寝・早起き・朝ご飯の啓発など、基本的な生活習慣の定着に向けた取組も実施しております。そのほか、食習慣や睡眠習慣、メディア利用などについて、給食だよりや保健だより等を通じて情報を発信し、家庭と連携しながら健康づくりを進めております。

こうした取組に加え、保護者や家庭に向けての働きかけとして、保育園や子育て支援センターなどでの栄養・運動講座などの実施にも取り組んでおります。また、妊婦の健康は子供の健康に大きな影響を与えることから、マタニティスクールなどによる健康増進も図っております。

特に若い世代においては、就労等により健康づくりに費やす時間が十分に確保できないという課題があり、今後、企業等との連携による情報発信や取組を進める必要があると考えております。

町といたしましては、町民の健康に対する意識の向上と行動の改善に加え、地域関係機関等と連携しながら、それぞれのライフステージに応じた健康づくりについてさらに取組を進め、第三次越前町総合振興計画における目標である誰もが生涯にわたって健康に暮らし続けられるまちを目指してまいります。

○議長（藤野菊信君） 高松恒雄君。

○5番（高松恒雄君） 丁寧なご答弁ありがとうございます。

健康寿命の延伸は行政だけで達成できるものではなく、住民一人一人の意識と行動が不可欠であります。だからこそ、参加したくなる仕組みづくり、続けられる環境づくりが重要であると考えます。町としての積極的な取組を求め、最初の質問を終わります。

次に、越前町の文化遺産「幸若舞」と大河ドラマを契機とした地域振興についてお伺いいたします。

幸若舞は、中世に成立した語りと舞を融合した芸能であり、かつては武士階級の間で広く親しまれてきました。現在では、全国的にも伝承例が極めて少なく、その意味において、越前町に残る幸若舞は極めて貴重な文化遺産であります。特に織田信長が好んだとされる「敦盛」は広く知られており、歴史文化としての価値のみならず、観光資源としての可能性も大きいと考えます。

また、幸若舞の価値を考える上で忘れてはならない人物がいます。それは幕末の志士であり、福井藩士である橋本左内先生であります。橋本左内先生は、幸若舞の流れをくむ家に生まれ、国家の将来を見据えた人材育成を説いた人物であります。そして、精神的背景には、地域に根づいた文化、すなわち幸若舞のような伝統の影響があったと考えるべきではないでしょうか。その思想や行動力はまさに日本の近代化の礎を築いた人材の一人であり、15歳のときの「啓発録」は全国的にとっても有名です。

しかしながら、保存・継承の現場に目を向けますと、担い手の高齢化や後継者不足、活動機会の減少など、多くの課題があるのではないのでしょうか。

そこでお尋ねいたします。町として、越前町の文化遺産である幸若舞について、現状をどのように認識し、どのような取組を行っているのかお聞かせください。

○議長（藤野菊信君） 教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（原 雅哉君） お答えいたします。

越前に伝わっていた幸若舞に関しましては、かつての舞の姿や謡がどのようなものであったのか詳しく伝わっていないため、旧朝日町のときから、その実態と本町の歴史文化との関わりを解明すべく、全国に遺存する幸若舞に関する資料の調査研究を進めてまいりました。

特に合併後の平成30年3月に町に寄贈されました桃井雄三家所蔵文書は、当時を知る貴重な資料であり、研究者の指導の下、調査研究を行い、その成果を越前町文化歴史館研究紀要で公表しています。

また、令和3年には織田文化歴史館で企画展覧会を開催したほか、これまでに収集した貴重な資料を未来へ継承すべく、令和4年2月には桃井雄三家所蔵文書を越前町の指定有形文化財に指定し、その保存、継承に努めております。

○議長（藤野菊信君） 高松恒雄君。

○5番（高松恒雄君） 次に、幸若舞の保存団体に対する支援の現状と今後の支援の在り方について、どのように考えておられるのかお伺いいたします。

○議長（藤野菊信君） 教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（原 雅哉君） お答えいたします。

幸若舞に関する団体としまして、幸若舞の里づくり会がございます。当会では、越前の幸若舞を全国に発信することを目的に、現代版幸若舞の創作と上演、講演会や講座の開催、かわら版の発行など多岐にわたる活動を継続しておられます。当会に対する財政的な支援としまして、歴史文化保存継承事業補助金を毎年交付しており、令和8年度におきましては42万8,000円を補助する予定です。

また、会の活動拠点としまして、越前町幸若文化情報センターの幸若研究室を打合せや講座の開催に利用いただいているほか、同センターの2階展示室及び1階ガラスケースにおいて、幸若舞に関する展示を行っております。そのほか、本町学芸員を会の顧問として派遣し、学術的な見地から会の活動に助言をさせていただくなど、幸若舞の里づくり会に対しましては可能な限りの支援を行っております。今後も当会への支援を継続しながら、幸若舞の保存、継承に努めてまいりたいと考えております。

○議長（藤野菊信君） 高松恒雄君。

○5番（高松恒雄君） また、幸若舞にゆかりがある橋本左内先生が説いた人材育成の観点からも、幸若舞を学校教育や郷土学習に取り入れることは大きな意義があると考えます。

町として、子供たちが地域文化に触れる機会をどのように確保していくのかお伺いいたします。

○議長（藤野菊信君） 教育長。

○教育長（大川伸介君） それでは、ご質問にお答えします。

これまで朝日地区の小中学校において幸若舞を紹介し、児童生徒たちが地元の歴史や文化に触れる機会を設けております。活動は主に幸若舞の里づくり会が中心となり、朝日小学校の出前授業では、幸若舞の歴史についての説明や現代版幸若舞の指導、朝日中学校の学校祭では、DVD、パネル、リーフレットを通じた幸若舞の紹介などが行われております。

近年では、朝日小学校のふるさと学習交流会において幸若舞が取り上げられ、児

童が現代版幸若舞を披露し、幸若舞の歴史について観覧者へ説明するなど、積極的に幸若舞を学んでおります。このほか、毎年、幸若舞のご縁で友好関係にある福岡県みやま市と本町の児童が行き来し、その地の文化に触れる活動にも取り組んでいます。

以上のような取組は、子供たちにとって、幸若舞をはじめとする地域文化に触れる貴重な機会であり、今後も継続してまいりたいと考えております。

また、現在、町が制作する小学校社会科副読本において、幸若舞を紹介してほしいという要望もあり、この件に関しましては、一例として幸若舞の創始者である桃井直詮のほか、郷土の偉人や町内の文化遺産等も併せて紹介できないか検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 高松恒雄君。

○5番（高松恒雄君） 次に、大河ドラマとの連携についてであります。

今年大河ドラマ「豊臣兄弟」でも、信長役の小栗旬さんが桶狭間の戦いのときに幸若舞「敦盛」を舞い、また、今度の本能寺の変のときも舞うと思われていますが、NHKの大河ドラマは地域振興において大きな影響力を持っております。例えば戦国武将や幕末の志士を題材とした作品が放送されると、そのゆかりの地には多くの観光客が訪れ、地域経済にも波及効果が生まれております。

幸若舞は、織田信長や橋本左内、源義経など歴史上の人物とも深く関わる芸能であり、大河ドラマの題材と非常に親和性が高い文化資源であります。仮に今後、関連する人物が大河ドラマとして取り上げられた場合、越前町として積極的に情報を発信し、誘客につなげることが重要であると考えます。

そこでお尋ねいたします。大河ドラマの動向を踏まえ、幸若舞を活用した観光振興や情報発信について、どのような戦略をお考えでしょうか。

○議長（藤野菊信君） 産業理事。

○産業理事（佐々木直人君） それでは、ご質問にお答えします。

大河ドラマを活用した観光振興としましては、ドラマの舞台や主人公ゆかりの自治体が、大河ドラマ館の開設や特設ウェブサイトを通じた誘客プロモーションを展開するなど、観光業の活性化や地域経済効果の最大化を図る取組の一つでございます。ドラマ放映の際には、県内外から多くの観光客が訪れ、飲食、宿泊、お土産品の購入など、地域経済全体に大きな潤いをもたらすことが、各地の事例からも確認されております。

また、歴史上の人物や出来事を再評価し、地域のシンボルとしてPRすることは、地域ブランドの再構築につながるとともに、中長期的な観光資源として定着させることで、継続的な誘客にも結びつくものと考えております。

本町におきましては、幸若舞発祥の地という本町ならではの文化アイデンティティを有しております。大河ドラマを契機に、観光振興に成功した先進市の取組事例も参考にしつつ、関係機関との連携を密にしながら、本町独自の魅力である幸若舞を生かした効果的な誘客と情報発信に取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 高松恒雄君。

○5番（高松恒雄君） 最後に、ほかの自治体では、大河ドラマの放送に合わせて資料館整備や企画展、体験プログラムの充実などを図っております。越前町においても、幸若舞常設展示や体験機会創出、学校教育との連携、観光資源としての磨き上げ

などを一体的に進めるべきと考えますが、町の見解をお伺いいたします。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） それでは、お答えいたします。

本町では、これまでも日本六古窯の一つである越前焼や織田信長公ゆかりの幸若舞など、歴史文化の発信に取り組んでまいりました。大河ドラマの放送は、これらの魅力を改めて発信する好機と認識しております。

本町には中核施設として、織田文化歴史館がございます。同館は、織田一族発祥の地、劔神社に隣接する立地を生かし、国宝梵鐘や織田信長公署判の古文書、豊臣秀頼公の朱印状のほか、桃井雄三家所蔵文書、烏帽子折の冊子、大織冠の絵巻物など、戦国期や幸若舞関連の貴重な資料を所蔵しております。また、小中学校の社会科授業の受入れや学芸員による展示案内を行うなど、展示、教育、観光が一体となる場となっております。

劔神社にも年間おおむね17万人台の参拝者、見学者にお越しいただいており、戦国武将への関心が本町への来訪につながっているものと受け止めております。

観光面につきましては、幸若舞単体ではなく、本町ならではの戦国ストーリーとして磨き上げることが重要だと考えております。織田信長公が「敦盛」をはじめとする幸若舞を愛好したと伝わる史実と、信長公、秀吉公ゆかりの資源を一体的に結びつけ、本町への観光客の増加につなげてまいります。

また、議員ご指摘のとおり、幕末の福井藩士橋本左内公は、桃井一族の末裔であり、桃井伊織、桃井亮太郎などの変名を持ち、自らが幸若家につながる者であることを意識していたとされております。

そして、幸若舞は戦国期の武将のみならず、幕末の志士とのつながりも語ることのできる本町の貴重な文化遺産であります。今後、幸若舞の魅力をより効果的に発信できるよう、展示や紹介の在り方を検討するとともに、関係機関、団体等と連携し、展示、教育、観光が一体となった取組を進めてまいります。

○議長（藤野菊信君） 高松恒雄君。

○5番（高松恒雄君） 丁寧なご答弁ありがとうございます。幸若舞の再興に対してご理解いただき、今までご尽力されてきた方々も喜んでいることと思います。

最後に、幸若舞は単なる伝統芸能ではなく、越前町の歴史と誇りを象徴する存在であります。この貴重な文化を次の世代へ確実につなぎ、さらに外へ発信していくことは、今を生きる私たちの責任であると考えます。大河ドラマという絶好の機会を見据えながら、保存と活用を両論として取り組んでいただくことを強く要望し、私の質問を終わります。

（午前10時35分 終了）